

解体新書



図1 『解体新書』扉絵 [デジタルアーカイブへ](#)
 画像の出典はいずれも「解体新書」(序図、巻之一)(福井県立図書館貴重資料)



図2 神経の図
[デジタルアーカイブへ](#)

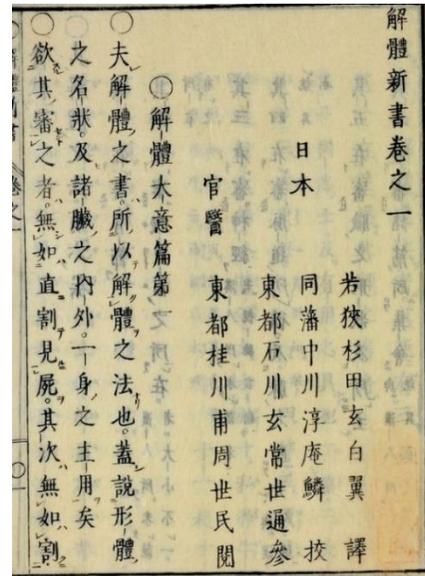


図3 翻訳者等
[デジタルアーカイブへ](#)

解説

江戸時代は海外との交流を制限していたことから、西洋の学術・知識の吸収は困難でしたが、18世紀の初めに**新井白石**らが世界の地理・物産・民俗などを説いて、洋学の先駆けとなりました。また将軍**徳川吉宗**が漢訳洋書の輸入制限をゆるめ、青木昆陽・野呂元丈らにオランダ語を学ばせたこともあって、洋学はまず**蘭学**として発達し始めました。以降、洋学は様々な分野で発達していきますが、洋学をいち早く取り入れたのは、実用的学問である医学の分野でした。

福井とのかかわり

『解体新書』の著者の一人である**杉田玄白**は、1733年(享保18)、小浜藩医の子として江戸で生まれました。8歳のとき、父とともに小浜に移り住み、13歳までそこで暮らしました。1771年(明和8)、玄白は小浜藩の援助により、解剖書『ターヘル・アナトミア』を購入。玄白は、同じ小浜藩医で本草学者でもある中川淳庵と、中津藩医の前野良沢とともに腑分け(遺体解剖)に立ち会います。その図版の正確さに驚愕した一同は、これを翻訳して多くの医者に読んでもらいたいと考え、さっそく翌日から翻訳作業に取り掛かります。しかし、彼らのオランダ語の知識はわずかなもので、「眉とは目の上にはえた毛です」という所を訳するのにも丸一日かかりました。それでも彼らはあきらめずに努力を重ね、1774年(安永3)、ついに『解体新書』を完成させました。

資料の注目ポイント

図1は教科書等によく掲載されている『解体新書』の図版です。これらの図は、平賀源内に西洋画を学んだ秋田藩士の小田野直武によって描かれました。なお、扉絵は原作の『ターヘル・アナトミア』ではなく、スペインの医師ワルエルダが著した『ワルエルダ解剖書』をモチーフとしています。

図2は神経の図です。実はこの「神経」という言葉は、『解体新書』が出版される以前は存在しませんでした。玄白らは翻訳の過程で、意味はわかるけれど対応する語のないものに、その意味を含む漢字を当てて新語を作成しました。玄白と陸奥国一関藩の医師建部清庵との往復書簡をまとめた『和蘭医事問答』によると、唐の「神気」という言葉と漢方の用語である「経脈」を組み合わせて神経という単語を作ったということです。

図3を見ると、杉田玄白、中川淳庵、石川玄常、桂川甫周の名前がありますが、翻訳の中心人物であった前野良沢の名前がありません。一説によれば、良沢は翻訳の完成度が低いことに納得がいかなかったため、自分の名前の掲載を断ったとされています。それほど良沢という人は、正確さや完璧さにこだわる人だったのです。発行を急いだ玄白も、不十分な点があることは感じていたようで、のちに弟子の**大槻玄沢**に改訂を命じています。

関連資料、展示等

名称	概要	備考
「解体新書 序図」 「解体新書 卷之一」 ～ 「解体新書 卷之四」	福井県立図書館貴重資料 資料番号 T0001-00001	デジタルアーカイブ福井で閲覧可能。 「序図」(序文、解剖図) https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=012-1002501-1-p1 「卷之一」(解剖学総論、体の形体、名称、要素、骨格、関節) https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=012-1033144-1-p1 「卷之二」(頭、口、脳・神経、眼、耳、鼻、舌) https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=012-1033145-1-p1 「卷之三」(胸、腹、肺、心臓、胃、腸、動静脈など) https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=012-1033146-1-p1 「卷之四」(肝臓、腎臓、生殖器、妊娠、筋肉など) https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=012-1033147-1-p1
「蘭学事始」	福井県立図書館貴重資料 資料番号 T0001-00126	デジタルアーカイブ福井で閲覧可能。 https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=012-2005672-1-p1
福井県文書館月替展示 「授業にでてくる福井の史料」 平成 20 年 7 月 25 日 (金) ～ 9 月 23 日 (火)	『解体新書』の他にも、『朝倉孝景 条々』や『柴田勝家知行宛行状』、 『五箇条の誓文』など、学校の授業 に関連する福井の史料を展示。	当館 WEB にて公開中。 https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/fukui/08/2008exhb/2008exhb00.html

参考文献

- ・『福井県史 通史編 4 近世二』(福井県 1996 年)
- ・『図説 福井県史』(福井県 1998 年)
- ・『新装版解体新書』(酒井シヅ 講談社 1998 年)
- ・『前野良沢』(鳥井裕美子 思文閣出版 2015 年)
- ・『ふるさと福井の先人 100 人』(福井県教育委員会 2016 年)